

教育到達目標と評価のイメージ

機械工作実習

	コア	
実習による 評価(40%)	<p>実習を体験し、各種加工の原理やその特徴を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 測長機器の取り扱いと寸法測定2. 手仕上げ3. フライス加工4. 研削加工5. 旋削加工6. 数値制御旋盤加工7. 材料試験	<p>今後関連する科目 材料力学(1) 材料加工学(1), (2) 機械要素(1), (2) 機械設計製図 基礎材料学</p>
アクティブ ラーニン グ(60%)	<p>実習より得られた測定値を表あるいは図に示し、文章で結果を説明でき、客観的に判断できる。また、実習で作成した加工品を製図できる。(50%)</p>	<p>発展: 考察を記述するに際して、論理的な記述ができる。自ら参考文献を調べ、その内容を正しく引用できる。自分の意見を客観的に述べる事ができる。(10%)</p>